

館林市

歴史の小径

歴史の小径は、市民の皆さんからの提言が基になって整備された、館林駅前から旧鷹匠町（現大手町）までの歴史的な建造物を結ぶ約 1.5km の散策路です。館林は、徳川四天王の一人である榊原康政公や、5代目将軍徳川綱吉公にゆかりのある城下町であり、町屋の雰囲気を残した住宅や、旧藩士住宅など、貴重な文化財が今もなお点在しています。

人と歴史と文化が交差する小径を、どうぞゆっくり散策ください。

1 館林駅(たてばやしえき)



駅の開設は明治40年。当初は、蒸気機関車でしたが、複線化された昭和2年には電気機関車となり、交通運送の面で館林の近代化の一端を担ってきました。駅舎は昭和12年の増改築を経て、平成21年、橋上駅舎および東西連絡通路が完成し、現在に至っています。

旧駅舎は、平成10年に関東の駅百選にも選ばれました。

2 竜の井(たつのい)

城沼にある竜神の妻が、かつてここにあった寺を守るため、この井戸に姿を消したという伝説から「竜の井」と名付けられたと言われています。以前、この一帯は善導寺の境内でしたが、昭和61年館林駅広場の整備に伴って、楠町に移転したため、現在は本堂前にあったこの井戸とイチョウだけが残っています。



3 毛塚記念館(けづかきねんかん)



毛塚家は江戸時代末期、丸木屋本店という屋号で造り酒屋を営んでいました。昭和29年に分福酒造と改称しています(現在、工場は野辺町)。館林旧城下町に残る本格的な町屋の建物で、平成10年に国の登録有形文化財に指定されました。かつては、敷地内にある井戸から取水しお酒をつくっていました。

4 大道寺(だいどうじ)

江戸時代は、同じ浄土宗の善導寺の寺務を行う役寺で、明治時代に善導寺より独立しました。境内には、国学者で元館林藩主だった生田萬(いくたよろず)の父祖の墓や田山花袋の算術の師であった戸泉鋼作(といずみこうさく)の墓などがあります。



5 旧町屋地区の住宅(きゅうまちやちくのじゅうたく)



江戸時代の町屋の住宅は、間口の大きさで税が決められていたため、節税対策として間口が狭く奥行きが長い敷地が大きくありました。このような住宅は「うなぎの寝床」と呼ばれていました。

6 青梅天満宮(あおうめてんまんぐう)

時の左大臣藤原時平の陰謀によって、菅原道真が大宰府に左遷させられた際、道真は「東風吹かば匂ひをこせよ梅の花 主なしとて 春な忘れそ」と詠い、4つの梅の実を枝に刺し投げたところ日本各地に散らばり根付いたそうです。その4箇所とは花久里梅（島根県）、飛梅（福岡県）、四季梅（香川県）、青梅（群馬県）で、それぞれに天満宮の分霊を勧請し菅原道真を祀っています。



7 外池商店(とのいけしょうてん)



屋号は和泉屋といい、江戸時代中期、近江の国（滋賀県）から移り込み、造り酒屋を営んでいましたが、明治33年には、味噌、醤油の製造業を行っていました。現在の建物は、昭和4年に建てられたもので、毛塚記念館と同様町屋の特徴を備えています。敷地内にある蔵は百々蔵蔵（ももせぐら）と名付けられ、以前はコンサートなど文化活動を行うことができるホールとしても利用されていました。

8 旧館林二業見番組合事務所(きゅうたてばやしにぎょうけんばんくみあいじむしょ)

二業とは、芸者さんの置屋と料亭のことで、見番はそれらの取次や料金の精算、取り締まりをしたところです。一階は事務所、二階には芸者さんの稽古場であった舞台付の36畳の大広間があります。この二業見番は、木造建築物として全国で数カ所しか残っておらず、非常に文化的価値が高い建物です。平成28年に国の登録有形文化財に指定されました。



9 青龍神社の井戸(せいりゅうじんじやのいど)



江戸時代、この周辺には福寿院というお寺があり、その境内に井戸がありました。伝説では、館林城主が徳川綱吉の時代に、突然清水が噴き上がり、中から女官姿の青龍権現が姿を現したことから「青龍の井戸」と呼ばれるようになりました。

また、この井戸と「竜の井」「城沼」とが一つに繋がっていたという伝説があります。

10 鷹匠町長屋門(たかじょうまちながやもん)

江戸時代、この周辺は鷹狩りに用いる鷹の訓練や養育に従事する鷹匠が住む「鷹匠町」として、多くの武家屋敷が立ち並んでいました。

「長屋門」とは、江戸時代以降の武家や豪農の屋敷に造られた門の様式の1つで、門の両脇の長屋は使用人の部屋や物置などに使用されました。

「鷹匠町長屋門」は市内の豪農の家にあった長屋門の木材を活用し、この場所に新しく造られました。



11 鷹匠町武家屋敷武鷹館(たかじょうまちぶけやしきぶようかん)



この周辺が江戸時代に鷹匠町と呼ばれた地域であることから、一般公募により、「武鷹館」と名付けられました。敷地内には「旧館林藩士住宅」「長屋門」「付属住宅」が整備されています。

特に「旧館林藩士住宅」は県内でも数少ない現存する武家住宅であり、平成11年度に館林市の重要文化財に指定されました。

12 土橋門(どばしもん)

館林城の通用口として使用されていた門で、現在の門は昭和 58 年に復元されたものです。土橋門という名は、門の前に土橋が架かっていたためと言われております。

門の中には葎土居(しとみどい)が設けられ、外部から中を見えにくくする工夫がなされています。



13 第二資料館(だいにしりょうかん)



館林の歴史的建造物等を移築して整備したもので、敷地内には旧上毛モスリン事務所や田山花袋旧居があります。

旧モスリン事務所は明治 41～43 年にかけて建てられた擬洋風建物で、上毛モスリン株式会社の事務所として使われていました。昭和 53 年に県の重要文化財に指定されています。

田山花袋旧居は田山花袋が少年期を過ごした家で、江戸時代の小規模な武家屋敷のひとつです。

14 旧秋元別邸(きゅうあきもとべってい)

最後の館林藩主秋元家が別邸として所有していた建物で、明治末期から大正初期に建てられたと考えられています。主屋は木造平屋建て・瓦葺きの入母屋造り、離れ座敷の洋館は昭和初期に東京の本邸から移築されたものです。和風建築と洋館の調和が美しい和洋折衷の建物で、近代和風建築の様式を知る代表的な建物です。



—歴史の小径— おまけ

整備経緯

- この地域は、かつて町の中心市街地として人や商店の賑わいがありました。しかし近年、大型店舗の郊外進出やモータリゼーションの進展とともに、中心市街地の活力が失われ、空き地・空き店舗の増加、居住人口の半減、著しい高齢化など、空洞化を招いています。

この状況を踏まえ、市では、歴史的な建造物を活用して市街地の再生を図るべく、地域住民の方と複数回のワークショップを経て、この地域の一部を「歴史の小径地区」として指定しました。平成14年度より「まちづくり総合支援事業」として国庫補助を受け、平成16年度以降は、まちづくり交付金を活用した都市再生整備計画「歴史の小径地区」として、まちづくりに努めています。

■ 歴史の小径散策マップ

